

## 令和5年度 地域きずな座談会 ①

- 1 日 時 令和6年2月8日(木)
- 2 場 所 花園町集会所
- 3 出席者 花園、西花園、上久保、駒沢  
(住民8名、地域生活支援コーディネーター1名、三沢市2名、社協4名)
- 4 懇談記録

### ■地域の現状・よいところ

#### ○現状

- ・高齢者が増え、町内会の加入率が下がっている。しかし、ここ数年で3軒ほど家が建ち、町内会にも加入した。町内会加入が市の助成金（三沢市住宅取得支援事業助成金）をもらう条件になっているため。
- ・昔は北村公園で花見をしていたが、毎年剪定してくれていた方も亡くなり、最近では手つかずだ。昔は町内で花植えをしていたこともあるが。
- ・幹線道路の草刈りは市で対応してくれるが、線路は防衛の管轄なのでそちらへ頼んで対応してもらった。
- ・花園町と西花園町は昔一つの町内会だったが、世帯数が多いことから県道から分けたことで二つの町内会になった。
- ・花園町は昔、祭りに山車を出して参加していたが、道路が狭いことや高齢者が増えたことで山車を出すのが大変になり、今は山車を出していない。

#### ○よいところ

- ・三沢市全体に言えることだが、天災が少ない。この地域は生活圏が集中しており、高齢になってもタクシーを少し使うだけで生活が成り立つ。
- ・坂が多い地域ではあるが、ウォーキングしたり、足の訓練には良いと思う。
- ・何事も会長が率先してやってくれるので役員としてはとてもやりやすい。何かあれば計画を立て、必ず実行する。若い人はいないが、役員会・町内の行事へは皆参加してくれる。
- ・今は70歳になっても働く時代で、夫婦で働いている人も多い。町内会役員を引き受けてくれるよう、男性に頼む時は、夫婦なら奥様にも説明して理解してもらうようにしている。役員になって一年後くらいにだんだんと仕事をしてもらうようにしている。
- ・自然が豊かである。町内会の軒数は少ないが、広い。昔から自然や伝統を守るため共同でやってきている意識が何よりの財産である。

- ・昔は通称「上久保ニュータウン」と言われていた時代もあった。現在は新しい家が  
でき、建て替えた方もいてとても素敵になっている。閑静な住宅街で非常に環境が  
良いところである。
- ・地域のつながりはそれなりにあり、寺子屋、老人クラブでのつながりを生かしてい  
る方がいる。

## ■地域の交流・集いの場

### ○交流

- ・交通安全母の会に所属し、子ども達の見守り活動をしているが、帰宅途中の子ども  
達が英語で話かけてきたので、それに英語で返すという出来事があり、とても良か  
ったなと思った。
- ・子ども会が解散したが、老人クラブの活動に子どもも参加できれば世代間交流もで  
きていいのではないかと思う。

### ○集いの場

- ・町内会に人を集める方法として、町内会の財政の問題もあるが、お金を掛けなけれ  
ば人は集まらない。使っても使わなくても予算をたくさんとっている。  
→活動の中で何か作る等、特にコミュニケーションをとるためにお金をかけている。
- ・集会所はほぼ毎日、何かの集まりに利用されており、年間 1800 人が利用している。  
トランプの日、老人クラブ、踊りクラブ、寺子屋等。町内会としては総会、盆踊り等。  
各役員に集会所の鍵を渡し、いつでも使えるようにしている。予算の出所は一つに  
まとめている。
- ・寺子屋の参加者は現在 25 名。ほぼ女性で、男性は町内会長一人で代表である。三沢  
市からの 5 万、町内から 1 万 5 千円、4 月にお茶代として 1 人 500 円貰って活動して  
いる。町内会の集まりのたびに寺子屋に入りませんか？と声をかけると 10 人に 1 人  
くらいは入ってくれる。皆喜んで参加している。

### ○夏休みのラジオ体操について

- ・花園町も西花園町も子ども達が一緒にラジオ体操できるようになるとよい。以前は  
20~30 人参加していたが、現在は 4、5 人程。老人クラブに声を掛け、先頭に立って  
もらい実施している。
- ・昔は上久保小学校に集まってラジオ体操をしていた  
→現在は上久保小学校で 2 日間ラジオ体操をするが、それ以外は町内でやっている。  
上久保地区では 5 日間~1 週間、集会所で体操をしている。

## ■地域の困りごと、課題

- ・冬になると除雪のことで相談されることがある。今年は雪が少なかったが、まかれる融雪剤の量が多く、勢いよくまかれるため、民家の敷地内、車にもぶつかるほどで雪が降ったのではないかというくらい白くなることがあった。善意でやっていることに対して少し複雑な気持ちだった。

## ○交通関係

- ・高齢になって免許返納する方が増えてきている。バスが入れる道ではないのは分かっているが、最寄りのバス停は一か所なので、他にもう少し違う場所（住宅街の中）にバス停を作れないものかと思う。
- ・小学生が交通量の多い県道を渡るのが大変。（花園町）
- ・町民がよく散歩したりする道路が狭くなっていて危険なため、先日市役所に陳情を出した。

## ○町内会の運営

- ・総会の資料や、情報を共有する場が欲しい。  
町内会の班長や役員をやりたくない理由に、何をするのか分からないという意見があったので、それぞれの仕事についてマニュアルを作成しようと思い、まずは一番敬遠される会計のマニュアルを作成した。結果、引き受けてくれる方が出てきた。  
→マニュアルを作るためのガイドラインがあればいいなと思うし、他の町内の資料を見たり、情報交換できる場、アーカイブ的なものがあるとよいと思う。
- ・昔は中央地区連合町内会の役員の方たちで交流をしていた。総会に呼んだり、呼ばれたり、近況報告、町内会の情報や、お互いの総会資料を共有していた。現在は交流会のような会は開催していない。
- ・町内会がどのような活動をしているのかを伝えるために、SNSを活用していったらどうか。また、他町内との連絡もSNSを活用できたらよいのではないか。
- ・図書館等に貸しオフィスや、市で町内会用にパソコン、モバイル Wi-Fi を貸し出す等、協力してもらえたら良いなと思う。

## ■その他

- ・きずな事業の中でご近所サポーターをしており、2人ほど見守りをしていたが、町内会長だからできた対応もあり、一般の方には難しい出来事もあった。
- ・町内に寺子屋がないので新しく作る際の詳しい話を聞きたい。  
目的…介護予防、地域のお年寄りの見守り  
開催…月一回 年12回  
内容…介護予防であれば自由、市から講師を呼んで体操教室や、参加者との交流を図る等。  
活動費…一律5万円（三沢市より）その他の活動費を集金しているところもある。

代表者…立ち上げた方が代表になることが多い。地域によって世話役、事務局等と  
言われている。

※活動報告や会計業務、年間行事予定表の作成等、担当地区の在宅介護支援センター  
の方が手伝ってくれる。

※詳しくは三沢市の担当課へ→介護福祉課 包括支援係 0176-51-8773

■避難行動要支援者名簿と個別避難計画について、介護福祉課より別紙資料にて説明

## 令和5年度 地域きずな座談会 ②

- 1 日 時 令和6年2月9日(木)
- 2 場 所 東岡三沢社会福祉センター
- 3 出席者 東岡三沢、下久保、上屋敷  
(住民4名、地域生活支援コーディネーター1名、  
在宅介護支援センターやすらぎ2名、介護福祉課2名、社協4名)
- 4 懇談記録

### ■地域の現状・よいところ

#### ○現状

- ・比較的大きな町内である。町内会員は6~7割程。子どもが多かった頃は祭りやねぶたを運行していてにぎやかで、活発に活動していたが、最近では子どもが少なく、参加者も集まらなくなってきたので運行をやめてしまった。よそから来た人が多い町内だが、交流が結構あるなど感じている。
- ・50世帯程の町内。昔は野球チームが2つできる程、子どももたくさんいたし、応援にもいっぱい行った。現在、子ども会がなくなり、母の会もどうしようかとなっている。人数が少なくなったがその分まとまりがある。
- ・町内の世帯数は250程。昨年は夏祭りや、花植え等の行事を開催し、100人程の参加者だった。子どもに参加してもらうため、まずは親御さんに参加してもらえるように考えている。
- ・三沢市でのいい所は、春になると山菜が良くとれること。春が来るのが楽しみ。

#### ○町内会

- ・町内会行事参加者に商品券を配っている。  
普段から行事に参加したり、軽い挨拶をする等、コミュニケーションをとることが大事である。会長が率先して動くことで住民も動いてくれる。
- ・毎日町内を一周して危険な場所等を確認しながら、町内会長として顔を覚えてもらえるようにしている。
- ・集金、回覧板等、班長さんの負担を軽くするため、班の人数を少なくした。結果、集金も楽になり、つながりも密になった。班内の高齢者の状況もわかりやすくなり、気にかけることができるようになった。
- ・高齢になると、計算等お金のことが心配ということで班長をやらない人も出てくるため、順番どおりに回らないこともある。
- ・町内会の班が25班あり、班長も25人いたが、7区14班にし、現在はスムーズにしている。

- ・ 集金業務は町内会費のみにし、様々な会費、寄付等はその中からまとめて払っている。
- ・ 行事に参加した人には商品券を配布している。貴重な時間を割いてきてくれた気持ちに感謝して還元している。
- ・ 子ども会がなくなってしまったが、町内会は子どもがいないと活気づかない。その親御さんたちには親御さんの会という形で町内会に残り、行事の時は手伝ってほしいと言っている。すると、行事と一緒に子どもがくることがあり活気づく。

## ○防災について

- ・ 町内会の区長に災害が起きたとき何が欲しいか、何が必要になるか考えてもらっている。そこから家庭で防災について話し合う機会ができていき、普段から災害に備えるように動いている。
- ・ 災害時の炊き出し訓練を毎年行うようにした。その際、婦人部の方たちが調理するのではなく、男性陣に食材のカット等をやってもらうなど工夫をしている。
- ・ 炊き出し訓練は口下手な方もコミュニケーションがとりやすくて良い。
- ・ 地域の学校の運動会等で防災関係のことをやって子ども達に覚えてもらうのもよいのではないか。
- ・ 市が持っている賞味期限の近づいた防災用の保存食の入れ替え時、町内会で安く購入する等できるのか？
  - 市役所の防災管理課から案内が来て町内会（自主防災）で申し込んだことがあった。直接防災に問い合わせしてみてもどうか？
  - 町内の世帯数が少ないため、防災の委員や係を決めることができない。非常食を常備する場所もないが、町内会での訓練に活用したい。
- ・ 災害時の受け入れや支援は町内単位か学校単位か。また避難場所はどこか。
  - この地域の指定避難場所は「堀口中学校」
  - 指定避難所に行かなければ救援物資等はもらえない。  
まずは、町内会で公園等に集まって人数確認をしてから指定避難所に向かうことにしている。
- ・ 指定避難所に行ってもすぐに支援を受けられるわけではない。行政が実際動けるのは3日後として、集会所がつぶれなければ集会所でできることはやれるようにして、その後指定避難所へ移動、とできればよいと備えている。
- ・ コロナの関係で避難訓練はできていないが、災害が起きた時のマニュアルはしっかりある。
- ・ 他町内で避難訓練、炊き出し訓練等をしている話、災害時の備蓄品の話聞き、集会所がある町内はいいなと思う。

## ■地域の交流、集いの場

### ○交流

- ・年3回程交流会を開催しており、70~80人程が参加している。バーベキューや、バンド演奏、歌を歌ったり、いろいろなことをしている。引っ越してきた人が多いこともありにぎやかになった。今後も交流会は続けていきたい。
- ・行事をやると、だいたい100人くらい集まる。子ども達を集めるにはまず、親を連れ出すことが大事である。
- ・高齢者は足腰が弱って家から出て来れなくなる人がいるが、町内会の集まりに顔を出してもらったり、電話やメール等を活用してコミュニケーションをとり、いざというときに備えて、つながりをつくっていきたい。
- ・免許を返納してから歩いて行動をしているが、すれ違う人に挨拶したりしている。岡三沢小学校の生徒から、「おばあちゃん転ばないでね」と声を掛けられてとてもうれしかった。子ども達は挨拶をしてくれる事が多いので気持ちがいい。

### ○集いの場

- ・寺子屋はやめてしまった。市から補助金が出ているが、支出内容が経費として認められないものが多く、現在は寺子屋をやめ、町内からお金を出して同じ活動をしている。老人クラブの活動は他地区集会所を借りている。
- ・集まりの場で参加者は少なくなったが、楽しく活動をしている。男性の参加者は少ない。

## ■地域の困りごと、課題

- ・民生委員の活動の中で、名簿を確認してくださいと来るが、以前、子どもさんと同居しているとか、空き家だとか報告していてもまたリストに載って来ることがあり、行かなくてもいいところに行ったりすることがある。名簿をしっかりと作ってもらいたい。

## ■その他

- ・民生委員、町内会長として、地域の1人暮らし高齢者3人と関わってきた。80歳か90歳くらいまでの10年、草取りや、雪かきを手伝っていたが、施設入所が決まったとか、子どもと同居が決まった時等、最後は何もなくなってしまう。ご家族の方に今後のことを聞くと、「教えなければいけませんか」と言われてしまうこともあり、少しむなしさを感じることもある。

- ・地域で見守りをしている高齢者に対し、住民で対応しきれない状況のとき、市の介護福祉課に電話して相談したらすぐに対応してくれたことがあり安心できた。
- ・町内会長と区長さんがラインを使い連絡を取り合っている。紙を使わなくてもいいし、確認事項等の返事もすぐ来る。とても使い勝手が良いなと思っている。
- ・マックテレビは三沢の歴史等、放送していて良いと思う。
- ・上屋敷町内会は東岡三沢一丁目にあり町内会名を東岡三沢一丁目町内会とするか町内で話し合った結果、なじみのある名前がいいということで上屋敷町内会となった。

■避難行動要支援者名簿と個別避難計画について、介護福祉課より別紙資料にて説明。

- ・リストが来たら確認にまわるのか？  
→その必要はなく、知らない人がリストに載っていたら、ここにはこんな人がいるんだなど、気にかけてもらえるとよい。
- ・市に提出するものはあるか？  
→提出する物はないが、町内の方でないとわからないようなことについて、協力をお願いすることはある。

## 令和5年度 地域きずな座談会 ③

- 1 日 時 令和6年2月13日(火)
- 2 場 所 谷地頭集会所
- 3 出席者 根井、朝日、高野沢、谷地頭、富崎、八幡、越下  
(住民10名、地域生活支援コーディネーター1名、  
在宅介護支援センターやすらぎ2名、三沢市介護福祉課2名、社協4名)
- 4 懇談記録

### ■地域の現状・よいところ

#### ○よいところ

- ・町内会の加入率が良く、つながり強いため、どこの誰といえはすぐわかるし、知らない人がいたらすぐわかる。
- ・町内会加入率が100%なこともあり、月に1・2回、広報等の回覧を回すときに顔を合わせることで変化に気づくことができる。
- ・神社や墓地は自分たちの財産である。年に5、6回、草刈りや、環境整備を地域で協力して行っている。
- ・静かなのがいいところ。災害もあまりない。
- ・小中学校と地域（北部12町内）合同の防災訓練をここ何年かやっている。中学生が小学生を見ながら避難する。平日にも関わらず、たくさんの方が参加しておりニュースにも取り上げられる。
- ・行方不明者等が出た場合、北部12町内会で捜索にあたるという取り決めをしており、消防団と町内で捜索に参加できる人とで、24時間体制で捜索をすることになっている。
  - 行方不明者の情報は介護福祉課へ行くのか？
    - ▶警察から連絡が来て、情報がある人か検索したり、認知症の方の顔写真や詳細情報を登録するシステムがあるので、把握している人であれば情報提供したり、できる範囲で協力している。
- ・年を取ったら、交通機関、病院等近いほうが良いと思っていたが、中心街に住んでいる家族から、騒がしくなくて静かで、住むならこっちがゆっくりできると言われ、そんな環境がいいなと思う。
- ・寺子屋に人が集まらないと聞くが、何歳になっても草取りもするし、雪片付けもするし、いつも動いてることが介護予防になっている。生涯現役。

## ○交通について

- ・ デマンド交通の実証実験が令和5年12月から始まったが、数人利用したという話を聞いている。これが普及してきて何人かで乗り合わせて利用したりできれば、とても良いと思う。  
→ 買い物に行くだけならいいが、病院に行ったついでに買い物となると時間がどれだけかかるかわからないため、利用の仕方が難しいところもある。

## ■地域の交流・集いの場

### ○交流

- ・ 浜側の地区とも協力してバーベキュージャンボリーを毎年開催している。
- ・ 世帯数は少ないが、皆つながりがあり、冬は農家の方がトラクターを冬バージョンにして一人暮らしの方の家を除雪してくれたり、面倒見が良い。
- ・ ご縁日や、開拓記念日、盆踊り等のイベントをやっている。神楽、バーベキュー、ビンゴ大会、カラオケ大会等。コロナが明けてイベントを再開したが、人が集まらないということはなく、コロナで開催できなかった分だけ余計に盛り上がった。
- ・ 小学校が地域に一つずつあった頃、学年関係なくすごく仲が良く、皆兄弟のようだった。たまにみんなで集まったりして今でも変わらず仲が良い。小さい小学校ならではのと思う。

## ■地域の困りごと、課題

### ○神楽

- ・ 神楽を教える人、受け継ぐ人もいなくなり神楽の会が消滅した。今後、ご縁日をご縁日のような形にするか検討していかなければならない。子ども達が楽しく参加しているのがうれしく、みんなが心のよりどころにしている神社であり、みんな楽しみにしているのでご縁日は残していきたい。
- ・ 以前は学校の授業で神楽を教えることができていたが、学校が統合され、学校で教えることができなくなった。神楽は言葉と動きだけで継承されてきたが、教える人、教わる人がいなければ伝えていくことは難しい。塩釜はまだ続いている。教える人、教わる子供がいる。

### ○困りごと

- ・ におい問題 春から夏にかけては風向きでひどくなる。  
→ 年2回、市の環境衛生課が調査に来る。ずっとにおい成分の測定をしていたが、去年あたりから人間の感じる臭いを測定している。

- ・ 中心街から遠いので、買い物も不便だが、事故、病気になったときにすぐ駆けつけてくれるのか心配。

## ○課題

- ・ 子どもがほとんどいない。全国的に人口は減るばかりだが、そんな中でも増えている地域もある。その政策を三沢市でも取り入れてはどうか。
- ・ マックテレビで自然が多く、遺跡もあると紹介されていたが、その場所にどう行くのかがわからない。良いものがたくさんあるので、もう少しPRしても良いのではないか。
- ・ 国も、市も様々な事業があるが、担当が変わるのが早く、担当者が変わるたびに同じ説明をしている。慣れたところにまた担当が変わるので、改善されるのではなく、また一からになってしまうことが多い。  
ふるさと納税に関しても、担当者が長く携わっていく事で良いものができるのではないか。

## ○ふるさと納税について

- ・ ふるさと納税の納税額を上げるため、納税額が上がっている他市町村を参考にしてみてはどうか？
- ・ ふるさと納税の市のホームページがあるが、返礼品の並び方が、納税したくなるような印象ではない。様々、改善することでもっと納税額を増やすことができるのではないか。

## ○買い物について

- ・ 北部に店がないのをどうにかしたい。  
→お店を経営していた経験があるが、移動販売も採算が取れず、冬は特に赤字になる。
- ・ 買い物するときはどうしているのか？  
→免許も車もない人は、家族が買い物に連れて行ったりしている。よこまちのお買い物便もあるが利用するまではいかない。今後、免許を返納したときには利用することになるかもしれない。
- ・ 今後デマンドタクシーが浸透してくれば、地域の人と都合をあわせて買い物に行くことも可能ではないか。
- ・ ヘルパーさんは買い物もしてくれるの？  
→ヘルパーさんを頼むためには要介護認定を受ける必要がある。  
買い物を頼むことは可能。

■避難行動要支援者名簿と個別避難計画について、介護福祉課より別紙資料にて説明。

## 令和5年度 地域きずな座談会 ④

- 1 日 時 令和6年2月14日(水)
- 2 場 所 日の出集会所
- 3 出席者 松原、南町、泉町、日の出  
(住民12名、三沢介護支援センター2名、三沢市介護福祉課2名、社協4名)
- 4 懇談記録

### ■地域の現状・よいところ

- ・新しい家が建ってきているので若い人たちが増えるのが楽しみだ。毎年、クリーン作戦、その後お楽しみ会を開催している
- ・町内会は平成3年に結成され、もうじき結成35周年を迎える。町内会世帯数は180程。アパートが増え、準会員が増えてきている。  
町内の行事としては春のクリーン作戦、夏祭り、バーベキュー、コロナでできていなかった視察研修などがある。
- ・一人暮らしの方の安否確認等、町内でできているところもあり、とてもよい町内だと感じる。
- ・1~4丁目まであり、500世帯程あり、町内会へ加入しているのは180世帯ほどである。新年会、忘年会、納涼会、子供育成会のクリスマスパーティー、新年のお祝い会等様々な行事を開催している。
- ・町内会は40世帯。新年会、バーベキュー、春秋にクリーン作戦等の行事を開催している。

### ■地域の交流・集いの場

#### ○集いの場

- ・日の出町内会には、いきいき教室、ゆうあいクラブ、ふれあいクラブ、子ども部会とあり、現在ゆうあいクラブ(老人クラブ)の活動が盛んである。ポッチャやグランドゴルフを楽しんでいる。ポッチャを購入してもらったので週3回やろうと決まった。
- ・近隣の町内と交流会をしてみたい
- ・コロナ禍で寺子屋の活動がなくなった地域があるが、他に集いの場、活動できる場があるというのはとても良いことである。
- ・老人クラブも寺子屋も参加者がほぼ同じということもあり、週にいくつも活動があると、参加者から大変だという声も出てくる。
- ・クラブで集まってトランプゲームやゲートボール、グランドゴルフ等活動しているが、ゴニンカンはなかなか白熱して楽しんでやっている。

- ・ゲートボールはチーム戦なので結果によっては喧嘩になることもあり、気を遣うこともある。それに比べグランドゴルフは個人戦なので気を使うことなく楽しめている。
- ・子ども達と一緒に本を読んだり、ふれあえるイベントをしたい。場所には恵まれているし、そのような活動から子ども達のことを知っていき、親御さんから申込書を書いてもらう事により、情報やつながりができていけばよい。

## ○寺子屋

- ・泉町地区寺子屋の活動は年 35 回程。フレイルの勉強会をしたり、様々な活動をしているが、一番楽しまれているのは生バンドでカラオケを歌う生オケ演奏会である。食べ物を作るときも参加者は多い。
- ・参加費をもらってゲームの景品、お菓子代にあてている。
- ・温泉バスを利用し温泉に行き、トランプをする日は参加者が多い。最近の利用者が少なくなっていて、他町内の団体も活用して行ってほしい。
- ・皆が参加しやすいように寺子屋の活動内容、年間行事を町内全部に回している。

## ○ラジオ体操

- ・夏休みのラジオ体操の時は、町内会長も毎朝顔を出し、子ども達の元気な挨拶がきこえる。最後に景品を渡している。子ども達がいきいきしている。
- ・夏休みに、6時30分から町内でラジオ体操をやっているが、小学校で7時からラジオ体操を実施しているため、町内会以外の子は素通りして学校に行く。
- ・町内会の子ども達には最終日にプレゼントを渡すが、他の子ども達にも声をかけている。
  - 町内会以外の子どもにも景品を渡そうとしたが、親御さんに止められているのか、町内会以外の子どもには断られる。「夏休みにラジオ体操をするので、大人も一緒に参加してください」と、文書をまわしている。

## ■地域の困りごと、課題

### ○見守り

- ・町内の高齢者が突然いなくなることがあり、話を聞くと病院に入院したとか、施設に入所していたということがあった。一人暮らしの高齢者をどうやって見守っていくかが課題である。
  - 回覧板や広報を回す関係もあるので、施設入所や転居の情報をもらえるとありがたい。
  - 気になることがあった時は、一度社協までご相談ください。

- ・民生委員として、一人暮らし高齢者の名簿と地図をチェックしながら動いているが、全てを把握するのは難しい。また、他のリスト（この時は社協からの）が来た時に、情報に違いがあり、どちらが新しいものなのかわからなかった。
- ・高齢者が朝のゴミ出しの帰りに、右折車と接触し怪我をしてしまった。時間帯によっては交通量が増えるので、心配である。
- ・町内会に入っていない世帯の情報をどうやって把握するのか。会員の情報は分かるが、それ以外の人の情報がない。  
→自主防災の名簿を作る際、災害時、名簿に名前がなければ助けようがないという話をした結果、情報を提供してくれた方もいた。
- ・ブラウン管テレビの不法投棄や、捨て置き自転車等があり、警察に連絡したが、その後どうなったのかがわからない。また、パトカー等が多数出動していて町内で事件があった様子だったが、住民には何も伝えられない。

### ○町内会について

- ・町内会清掃時、側溝の掃除もするが、町内会に加入しない外国人の家の前もやらなければいけない状況である。町内の草刈りをやるにもお金がかかる。大家さんが家賃から町内会費を払うシステムができればよいのだが。  
→話をして払ってくれる大家さんもいるが、間に不動産屋が入っていると、不動産屋から規約にないのでと断られる。
- ・町内会費について、税金を払っているから町内会費は払わない等、様々な理由で協力してもらえないこともある。
- ・住宅取得支援事業助成金の関係で、新しく家を建てた人たちは、町内会の加入証明書が必要なため、町内会に加入する傾向である。  
→詳細は市のホームページで確認できる。（担当課：政策調整課）
- ・町内会として、地域の新一年生が何人いるのか知りたい。  
→社協では名簿はない。市役所では情報は出せない。学校と町内との関係もある。

### ○町内会の正会員・準会員について

- ・準会員との交流等がどのようにしたらスムーズにいくか考えている。以前は準会員も町内会行事に参加していた、借家住まいだった方が、町内会が楽しかったと、日の出に家を建ててくれたことが非常にうれしかった。
- ・正会員には募金や、寄付の案内を回すが、準会員には回さない。協力金だけもらっている。
- ・準会員でも広報には様々な情報が載っているので広報だけは配布するようにしている。  
→今後、準会員が増えて正会員がいなくなったら、町内会費が入らなくなってくる。正会員ではない人に災害時等、町内会として手を貸せるのか。

- ・町内会行事をやったときに正会員の方には回覧板で案内を回して出欠確認をしていたが、当日、正会員以外の子どもが来て参加していった。プレゼントを人数分しか用意しておらず、急遽追加して対応した。  
ラジオ体操の景品も同じく、正会員の子どもの景品を用意しているため、今は臨機応変に対応しているが、今後問題になってくると思われる。

## ■その他

- ・年々視野が狭くなる為か、限られたことしかできなくなってしまう。楽しかった時代、何が楽しかったか、それを忘れてはいけないのではないか。
- ・草刈り等に参加した子ども達を地域の大人達がほめてあげることが大事である。
- ・挨拶運動を行っているが、腕章やベストを着ていないと無視されてしまう。  
→腕章を生活安全課から借りることができる。
- ・以前、緊急時医療情報キッドというものがあつたが、今はどうなっているのか。  
→現在も継続している。避難行動要支援者名簿に登録された方にも配っている。

## ■避難行動要支援者名簿と個別避難計画について、介護福祉課より別紙資料にて説明。

## 令和5年度 地域きずな座談会 ⑤

- 1 日 時 令和6年2月20日(火)
- 2 場 所 春日台社会福祉センター
- 3 出席者 春日台一丁目～四丁目、古間木一丁目～二丁目、朝日台、古間木団地  
本町一丁目  
(住民13名、地域生活支援コーディネーター(栄町)1名、  
ニチイケアセンター三沢1名、三沢市介護福祉課3名、社協4名)
- 4 懇談記録

### ■地域の現状・よいところ

#### ○現状

- ・きれいに整備されていて緑もあり、街灯も多く、防犯面でとても良いところ。しかし、住民同士のつながりはあまり無く、どうやったら交流、つながりができるのか、町内会に参加してもらえるのか模索中。
- ・若い人がなかなか増えない。今後若い人が住んでくれたらと思う。
- ・町内会は150世帯程、1～3丁目まであり、3丁目は新しい地域、現在町内会役員は3丁目の人がメインになっている。老人クラブの活動をしているが、他地域ではどのような活動をしているのか参考にしたい。
- ・町内会は118世帯16班。コロナの影響もあり、行事は少ない。クリーン作戦には参加している。班長は順番にうまく回っているが、役員はそうではなく、世代交代がうまくいっていない。
- ・役員のなり手が無いのは同じだが、高齢により、町内会を退会したいという声がある。準会員としてでも良いので、年に数回顔を出してもらい、つながっていけたらよいと考えている。
- ・三沢商業高校と防災について一緒に活動したいという話があり、合同訓練を想定し、何度か会議をしている。いざというときに商業高校に避難する。生徒の力を借りながら訓練計画を立てているが、まだ計画段階である。
- ・町内会の会員は134世帯、町内会長を交代したいがなかなかできない。空き家が増えてきており、管理の方法を勉強しなければと考えている。
- ・不動神社の管理は町内でやってきたが、町内の住民の高齢化に伴い、町内会長が二日かけて草刈りを行っている。春日台保育園の子ども達が遊びに来るので大変だが頑張っている。
- ・町内会に加入している世帯は107。新築の家が7、8軒増え、若い人が増えた。新築の家は増えたが、亡くなる人もいるため軒数は増えておらず、現状維持の状態である。

- ・長く住んでいる方々は顔なじみで心を許し合っているところもあるが、高齢化が進み、家から出てこられなくなり、顔を合わせる機会が少なくなった。よそからアパートに越してくる方は他者との交流を拒む人が多く、どのような人が住んでいるのかわからない。町内会としても近所としても交流が減ってきている。
- ・民生委員として高齢者の個別訪問をしていると、施設に入所したい、介護保険制度について知りたい、草を刈ってほしい等、相談を受ける。
- ・住んでいる気配はあるがなかなか会うことができない、近所の人に聞いても情報を得られない人もいる。
- ・三沢市の助成金（三沢市住宅取得支援事業助成金）をもらう条件に町内会に加入することとある為、町内会に若い人が増えた。小さい子供がいる家庭もあるが、まだ行事への参加はしていない。

## ○よいところ

- ・わからないことは聞けば教えてくれることが多く、町内会運営がしやすい。安心して暮らせる地域である。
- ・自然が多く静かで住みやすい。幼、保、小、中、高と子ども達の登下校の声が聞こえ、活気がありとても良い環境である。
- ・道路の補装がされてきて、犬の散歩、ジョギング、ウォーキングをする人が増えてきた。今年の冬は雪が少なかったので特に多かったと思う。若い人も増えて道路も整備され、とても良いことである。
- ・クリーン作戦の参加率がよい。集合場所を変えた結果、参加率が上がった地域もある。

## ○町内会費

- ・町内会費を振込にしたらという意見が出ているが、高齢者は対応できない。
- ・町内会費の平均値が知りたい。町内会員から会費が高いのではないかと問われる。平均値がわかれば話しやすくなる。  
→町内会のことは広報広聴課で把握しているかも。
- ・コロナ禍で町内会費を下げたが、上げるのは難しい。なくしてほしいという声もあったが、町内の街灯、ゴミ箱等を管理するために必要だと話し、納得してもらった。

## ■地域の交流・集いの場

### ○三沢まつり

- ・コロナで休んでいたことと、市からの指示で運行中の飲酒が禁止される等で、昔からの参加者はほぼいなくなった。現在は30歳以下の方が山車作成をされており、職人のような人もほぼいない状態で苦労している。

- ・子どもが少なく、山車の運行にも支障が出ており、他地域に声を掛け、参加してもらっている。  
→祭りには 11 町内会で参加しており、希望者は誰でも参加できるようにしている。
- ・今年は大沢まつり 100 周年なので何かやりたいと思っている。事故の無いように気をつけたい。
- ・今後の祭り準備に関して、資料をまとめており、誰でもわかるようにしている。

## ○寺子屋

- ・古間木地区には、えきまえ寺子屋と古間木地区寺子屋があり、活動は活発である。
- ・えきまえ寺子屋の活動では、花見、100 歳体操、折り紙、青年の家でグランドゴルフや陶芸等様々である。折り紙は特に盛り上がる。
- ・現在の参加者は 13~15 人。移動手段が一番の問題であり、乗り合いで移動している。
- ・寺子屋を 4 町内で共催しており、寺子屋の回覧は 4 町内会で行っている。
- ・他町内会で行事をやっているのを見て、自分の町内会でも何かやらないのか、という声があり、何か企画しようと思っていた時にコロナがあり、開催できていない。  
→以前は町内会で行事を開催していたが、現在は企画しても参加者は少ない。
- ・町内会で行事を企画しても人が集まらないので、寺子屋に参加してみはどうかと勧めたが、様々な理由から参加しない方が多い。  
→コロナのせいで外出するのがおっくうになったこともあると思うが、一緒に参加する方がいいが、一人で参加するには勇気が必要であると思う。
- ・えきまえ寺子屋を立ち上げて 15 年程経つが、代表者を引き継ぎたいと思い、運営に必要なデータをまとめてあるが、パソコン操作を覚えるとなるとなかなか大変だという声がある。
- ・町内会と寺子屋の運営は別である。回覧文書は町内会で回しているが、現在、寺子屋のチラシが回覧で回っていない町内もある。

## ○連合町内会

- ・西古間木地区連 11 町内会で新年会、グランドゴルフ大会を開催したが、コロナの関係でまだ数回しかできていない。
- ・地区連の中に古間木団地町内会は入っていないが、高齢者の方も多く出歩く人も少ない、子どももいるので地区連に加わるにより交流の機会にもなるのではないか。
- ・地区連の行事にみんな参加してくれれば良いと思っているが、現在、町内で行事をやってほしいという声もある。実際やるとあまり人が集まらない。

- ・古間木地区の地区連、各町内会、老人クラブ、寺子屋、民生委員、PTA等様々な活動があるが、それぞれに活動していることが大変そうに感じる。個々に行事を開催するのが難しいと思ったとき、地域の運動会等を一つの団体だけでなく、それぞれの団体から人を出し合って役割分担をして開催することによって、絆が深まり、まとまりが出てくるのではないか。個々の団体の行事不足も解消されていくのではないか。

## ■地域の困りごと、課題

- ・町内会役員の世代交代がうまくいっていない。
- ・空き家が増えているが、環境整備、防犯面で管理をどのようにしていくか。
- ・福祉的、経済的支援が必要な家庭に支援は届いているのか。自分で相談に動ける人はいいがそれ以外の人たちには？
  - 現在実施している活動としては、おすそわけ便という活動を楽晴会が行っており、民生委員、市内企業、様々な法人、ボランティアさんの協力で運営している。
  - 緊急的な支援として、社協ではフードバンク、市役所では困窮者窓口等がある。
  - 緊急的な支援が必要な人達の情報を拾うのは誰？
  - 地域の皆様をお願いしたい。いつもと状況が違うな、様子がおかしいなと思ったら情報をいただきたい。
  - 本人に接触する前に社協に相談するのか？
  - 状況によるのでまずは連絡をいただいで、そこから対応を検討していく。

## ○防災

- ・災害時の避難場所が、古間木小だが、坂が多い地域でもあり、大変である。春日台社会福祉センターを一時避難所としてはどうか。
- ・災害時、各町内会に住民の数に応じてリヤカーを設置してはどうか。
  - 自主防災会の予算で購入するのはどうか。
  - 自主防災会を作りたくても人員不足のため作れない地域もある。
- ・暴風雨の時、防災無線で支援者は支援する人を避難させてと放送が入った。民生委員として対象者を避難場所である三沢商業高校へ避難させたが、町内の人は誰も出てこなかったということがあった。
- ・自主防災会があり、市の出前講座を開催したが、参加人数は少なかった。
- ・災害時、要支援者の情報共有（個人情報等を考えつつ）できるシステムがほしい。
- ・災害時は班員の安否確認をするということを規約に載せようかという話が出ている。

## ■その他

- ・小松ヶ丘の近くに春日台団地という住宅地ができ、春日台町内会ができた。7、8年前に新しく道路ができたことをきっかけに町名を変えて春日台4丁目ができた。
- ・朝日台は以前、春日台団地という地名だった。春日台一丁目、二丁目とできていき、春日台団地ではない新町内会名を考えたとき、朝日台という町内会名ができた。

■避難行動要支援者名簿と個別避難計画について、介護福祉課より別紙資料にて説明。

## 令和5年度 地域きずな座談会 ⑥

- 1 日 時 令和6年2月28日(水)
- 2 場 所 三沢市国際交流教育センター
- 3 出席者 北園、堀口、南山、さつきヶ丘  
(住民10名、三沢介護支援センター1名、三沢市介護福祉課2名、社協4名)
- 4 懇談記録

### ■地域の現状・よいところ

- ・世帯数は増えてきている。町内会、寺子屋等も活発である。
- ・スポーツセンターや、買い物もができる場所が近くにあり良い地域である。
- ・スーパー、コンビニができて生活環境が好転してきている。
- ・世帯数は増えている。アパートも増えている。一部のアパートでは町内会費は家賃と一緒に集金されており、町内会へ振り込まれる仕組み。アパートでゴミ箱を設置しており、管理会社で管理している。
- ・限られた区域なので世帯数の増減はないが、町内会員は年々減ってきている。若い人後継者がいないため町内会維持とゴミの収集等に苦戦している。
- ・民生委員の活動は必ず2人、複数で行うようにしてもらっている。町内会長のところに民生委員が時々相談に来るが、お互い情報交換にもなり助かっている。

### ○町内会について

- ・月1回、5~10分ほどだが、班長さんに集まってもらい状況報告会をしている。子どもと一緒に参加することで親と子を確認できる。その中で役員をやってくれそうな方に、一年間何もできなくても大丈夫と声を掛け、少しずつ世代交代をしていきたいと考えている。
- ・班長手当、連絡員手当等を出している。高齢になって班長をやれなくなった人も、班長をやるなら町内会に入らないという若い人もいて対応が様々大変である。
- ・町内会加入世帯数は現在170程。若い人は出ていく人が多く、役員のつながりはあるが、住民同士の近所付き合いは薄い。数年前から総会時に夕食を出すようになってから、参加者が少し増えた。
- ・総会時、参加者に商品券を配っているが、だんだん参加人数が増えてきた。町内会の世帯数は減っている。以前あった罰金制度を無くした。
- ・市営住宅の入れ替わりはある。各棟に会長が一人ずついて、町内会では副会長をしてもらっている。
- ・以前は防犯灯も町内会管理で電球の交換も町内会費から出していたが、今は市で負担している。何か困りごとがあった時は声に出していけば少しずつ変わっていく。

## ■地域の交流・集いの場

- ・新年会、防災訓練、盆踊り、8月のラジオ体操は子供、保護者、高齢者と参加者が多い。
- ・新年会は大人の飲み会のようなイメージがあり、アルコールの有無を検討。一度ノンアルコールで開催したが、ないと寂しいという声があり、今回はアルコール有で開催。  
→ただし、子どもも楽しめるようにということで、子どもの遊び場を作った。子どもには好評だった。子どもは楽しめる場所とわかれば集会所にも来たくなるのではないか。
- ・南山にはみみずくの会というグループがあり、週一回、手芸等をしており、情報交換の場になっている。寺子屋、老人クラブもあり、声を掛けると行事を手伝ってくれる。
- ・新しい試みとして、夏休みに子どもを対象に南山お助け塾を開催。理科研究、読書感想文、習字、防災関連でお湯でオムレツを作ることを親と子が一緒に体験する等した。初めてで人数はなかなか集まらなかったが、今後も様々なことをやっていきたい。
- ・コロナが明けてから、バス旅行を復活させた。敬老の集いは26年続いている。バーベキューの参加費は一人100円、無料だと申し込んでおいて来ないことがあるのでワンコインで開催している。参加してもらうことが第一。
- ・行事に参加する人はだいたい決まっているが、出てこない人には文書を出したり声を掛けている。体が不自由だが参加したい人もいるし、周りでサポートして参加してもらえるようにしている。
- ・児童館、老人クラブ合同で芸能発表会を開催。参加者が多く、町内会の方々がどうしたら参加が増えるのか考えて開催したのだと思った。地域の人たちのつながりを感じた。
- ・以前は婦人会、子ども会等があり、総会、盆踊り、バーベキュー、ゲーム等様々な行事を開催していたが、準備、運営等、協力してくれる人、参加者も少なくなってきたため開催できなくなった。
- ・毎年、7月に独自のクリーン作戦を開催している。その後に町内の自主防災会で備蓄している非常食を世帯配布している。参加率は8~9割。
- ・住民が多く集まるときに、防災訓練等、大人から子どもまで参加できることをやることで、交流を深める機会になるのではないか。

## ■地域の困りごと、課題

- ・町内の人口が減って空き家が増えている。空き家対策に力を入れてほしい。

## ○町内会について

- ・町内会に加入している忙しい若者をどう取り込むか、高齢者は自然と協力してくれるが、どのようにしたら皆参加したくなるのか、どうしたら絆のある地域になるのかが課題である。
- ・役員のなり手として、定年退職した方に声を掛けるが、なかなか難しい。
- ・市からの町内会への予算をもう少し多くしてほしい。
- ・町内会の加入要請を強くしてみてもどうか。
- ・準会員制度を作ったことがあるが、今後引越す予定がある人達は正会員では入らなくなる。持ち家に住んでいる人も準会員でいいと、正会員が増えなくなる。

## ○ゴミ問題

- ・ゴミ箱の管理は町内会でしているが、町内会に加入していなくてもゴミは捨てていく。収集されないゴミは町内会役員で仕分け直している。
  - ゴミかごに鍵をつけた町内もある。結果ゴミが減った。
  - 逆に、鍵をつけるとゴミかごの横にゴミを置いて行かれカラス対策にならないこともある。
  - 町内全箇所鍵をつけるのは難しい。
- ・ゴミの収集日がわからないのか、いつの間にか大きなゴミを置いて行かれる。
- ・ごみ箱購入にあたり、規格に合っていれば、1基あたり上限40,000円（1町内会2基まで）の補助が出る。
- ・外国人不法投棄に関しては防衛のほうに相談し対応してもらった結果、不法投棄はなくなった。
- ・アパートが集まっている場所等、曜日関係なくゴミを出していたり、めちゃくちゃであったが、きれいに掃除して、ゴミかごを変えた結果、少し改善された。
- ・町内会に加入していない住民に対して、ゴミ収集の予定表とゴミかごは町内会費で賄っているため、「ゴミ箱の協力金として年間1200円いただきたい」という文書をポストに入れている。
  - 集金は班長さんの負担にならないよう、会長と役員が行っている。
  - 結果50世帯以上が協力してくれている。今まで町内会に加入していなかったアパート住民も、町内会に加入する人が出てきた。

## ■その他

- ・民生委員の活動の中で一人暮らし高齢者、体調が悪い人等と関わっていくと、サポートできているなど感じることもあれば、責任を感じることもある。
  - 困ったときは地域包括支援センター（介護福祉課）に一度連絡してほしい

- ・ 以前津軽方面に視察に行った際、住宅取得補助のシステムを見たが、現在三沢市でも住宅取得支援事業助成金制度として実施されている。町内会加入が条件になっていることから、北園町内会ではここ4、5年で15、6軒分の町内会加入申請があった。
- ・ きずなのデータ更新について、毎年情報の更新をしているのか。また、新規の情報等、市とも連携してしっかりやってほしい。

■避難行動要支援者名簿と個別避難計画について、介護福祉課より別紙資料にて説明。

## 令和5年度 地域きずな座談会 ⑦

- 1 日 時 令和6年2月29日(木)
- 2 場 所 大津社会福祉センター
- 3 出席者 大津、浜三沢、三川目、鹿中、淋代、前平  
(住民10名、地域生活支援コーディネーター1名、三沢介護支援センター1名、  
三沢市介護福祉課2名、社協4名)
- 4 懇談記録

### ■地域の現状・よいところ

#### ○現状

- ・町内会加入世帯は150世帯程だが、総会の参加者は役員を除けば40人程である。そのうち30人くらいは女性である。
- ・役員15名中、日中仕事をしている人は12人。あまり機能しないかも思っていたが、様々な行事に声を掛けると活躍してくれる。組織がとても良いと感じている。
- ・若い世代が町内に家を建てて住んでいるケースが7、8軒ある。町内に移住して来た人も3軒ほどある。今後若い人たちも、子供も増えていけば希望が持てる。
- ・三沢漁港がある。昔は三川目漁港という名前だった。今は「昼いか」に力を入れている。震災の時は津波の被害があった場所でもある。
- ・津波の被害が一番大きいのは三川目と想定される。東日本大震災を機に毎年防災訓練を行っている。今年は防災管理課の方を呼んで話を聞き、様々な想定をしながら避難経路を再度確認したい。
- ・昔は、除雪作業しながらそりで遊ぶための坂を作ったり、スケートリンクを作ったりしていたが、現在はなくなった。
- ・淋代保育所は通勤ルートの関係もあるのか定員いっぱいである。

#### ○よいところ

- ・漁港が近いため、花火大会等行きやすい。
- ・声掛けをしたら人は集まる、協力してくれる人が多い。
- ・おじいちゃん、おばあちゃんが一緒に住んでいる家庭も多く、若い人は行事に参加できなくてもおじいちゃん、おばあちゃんが参加することが多い。一緒に住んでいるということは良い環境である。
- ・飛行機の騒音により、平成17年に33世帯が、園沢に移転した。集会所が新しくなり、役員も若い方で構成されている。問題点解決の為に一致団結して頑張っている。
- ・ゴミかごをすべて改修したら、意識が変わった。

- ・ 神社の境内、集会所周りに除草剤を使い作業が楽になった。
- ・ 高齢者等支援が必要な方の除雪作業を手伝っている。
- ・ 個人情報の取り扱い規程、管理の方法等を町内会員と共有し、安心して個人情報を提供してもらえるようにしている。
- ・ 町内に小、中学校、児童館、公園があり、招和台公園が一番大きいがその中に神社があり、昔ながらの形がそのまま残っている。地域住民の意識をつき詰めなくても方向性が似通っていて、地域の協力が必要な部分は自然と協力できるような雰囲気がある。
- ・ 子供の人数が減っているためか、登校時の子供たちの声が聞こえなくなった。帰りは声が聞こえるのでほっこりする。

## ○消防団

- ・ 消防団の団長を町内会の役員の一員としているが、消防団の団員は足りていないのが現状である。
- ・ 消防団が、お盆や正月に見回りをしてきていることがありがたい。
- ・ 消防団の団長をやると町内会長をやらなければならないという流れがあるが、スタッフが 20 名いて、とても恵まれていると感じる。

## ■地域の交流・集いの場

- ・ 桜を見る会を開催している。毎回参加する人は同じだが、子ども会にも声を掛けるため、三世代で参加する家庭もある。
- ・ 春先に花壇の植え付けをしている。以前花壇コンクールで優勝した事もあったので続けていきたいが、高齢化してきているため下火になってきている。
- ・ 春のクリーン作戦や行事の案内を出すと皆参加してくれるが、毎年同じ行事ばかりではマンネリ化してくるので、少し違った行事を考えていきたい。
- ・ あじさいクラブ（老人クラブ）の活動で 100 歳体操を年 2 回続けているが、とても良い体操なので月 1 回、2 回と回数を増やしていきたいと思っている。
- ・ 老人クラブの活動が活発。活動内容として「陶芸」「そば打ち教室」「料理教室」「認知症勉強会」「絵手紙教室」「バス旅行」等。他町内からも参加者がいる。
- ・ 町内会の役員とわらび会（老人クラブ）でお盆と、春、秋の彼岸の時に、墓地清掃と薬剤散布をしている。大津、四川目の霊園はすごくきれいで自慢である。
- ・ 四川目の金毘羅神社に年末になるとのぼりや提灯をつけるが、これも町内会の役員とわらび会でやっている。協力して作業できていることがとても良いところである。
- ・ 近所の子ども達の登下校時、声掛けをして見守りを続けてきた。自宅でミニ動物園を作っており、近所の子ども達が動物と遊びに来るが、このような昔ながらのつながりができるのは良いことである。

- ・鹿中、大津の子ども会で交流レクリエーションを開催した。皆楽しく参加していた。
- ・民生委員の老人部会の活動でコロナ前は地区の集会所でご飯を作って食べてもらう、という活動があったが、今後また再開していく予定である。
- ・他の町で、町の行事があると、会場入り口で血圧測定、健康相談を行っていることがあるが、健康、長生きについてよく考えられていると感じた。

## ■地域の困りごと、課題

- ・赤い羽根の寄付を集めているが、初めから金額を提示されていると、寄付をする気がなくなる等、会員から話があり、何軒か説明に行った。もう少し違うやり方はないか。
- ・浜三沢は今、本村地区と園沢地区と分断されており、コミュニティを壊さないよう再構築していかなければならない。
- ・集会所の床はコンクリートの為、高齢の方にはつらいのではないかと考えている。

## ○住民の情報

- ・町内の世帯数、構成員がわからない。
- ・民生委員として一人暮らし調査をしているが、名簿では一人暮らしだが、実際は世帯分離して、家族と同居している方が多い。
- ・名簿を作る際、同居しているが世帯分離している人を分かるようにしてほしい。それによって災害時の対応が変わってくる。
- ・町内に何世帯、何人住んでいるか把握するため、リストが欲しい。事前にわかっていたら何かあった時に早い段階で助ける事ができるのではないか。

## ○認知症の方について

- ・個人情報になるが、認知症の方の情報を町内に教えてほしい。知られたくない家庭もあると思うが、行方不明になって二日後に発見されたという話を聞いて、もっと早く聞いていたら何かできたのではないかと思った。昔は消防団に捜索要請があったが、最近はない。地域で情報共有できるものが欲しい。
  - 介護福祉課では徘徊する可能性の高い方を登録するシステムがある。前後左右の写真と申請された個人情報を登録している。
  - 認知症の方が行方不明になったとき、市内の登録された企業（会社、銀行等）にお願いして皆で探すというシステムがある。
  - 相談したいことがあれば介護福祉課まで連絡してほしい。
- ・シニアライフ大津と町内会で災害時の対応や協力体制について話し合っているがあまり進んでいない。施設と町内会だけでなく、市も一緒に話し合いをしたほうがよいのではないか。

- ・地域のつながりで、普段からちょっとした声掛けをしていく事で認知症の方等の見守りができる。協力しあえる地域なので情報共有しながら良い方向に進めればよい。

## ■その他

- ・三沢の南寄りの地区で、一川目、二川目、川を挟んで三川目となるが、現在は間をおいて、六川目となっている。移転で四川目、五川目と住む人がいなくなりましたが、四川目、五川目の名称、町名、地域はなくさないでほしかった。
- ・三沢市には風の影響を受けやすい地域があり、飛行機の離発着にも影響がある。天気予報でもう少し詳しく三沢市を取り上げて良いのではないか。

## ■避難行動要支援者名簿と個別避難計画について、介護福祉課より別紙資料にて説明。

- ・介護認定を受けていない方で、対象になりそうな方もいると思うが、そういう人たちは名簿に載るのか？  
→同意があれば載る。市で登録されていない人は、地域の方からお話を聞いて進めていく。
- ・認知症の方で自分で判断できるか危うい状態の方からの同意はどうやって取るのか。  
→この名簿の登録に関しては代理でも良い。

## 令和5年度 地域きずな座談会 ⑧

- 1 日 時 令和6年3月6日(水)
- 2 場 所 総合社会福祉センター
- 3 出席者 幸町一丁目～三丁目  
(住民4名、三沢市介護福祉課1名、社協4名)
- 4 懇談記録

### ■地域の現状・よいところ

- ・高齢者が歩いて行動できる範囲に、官公庁、金融機関、郵便局、病院、スーパー、学校が近くにあり生活するのにとても恵まれた地域。
- ・空港、電車の駅があり住みやすい町であるが、全体的に若い人は減っている。
- ・幸町一丁目は高齢者が元気。現在100歳の方2人が草刈りなど、幸町集会所を管理してくれている。きれいに管理されており、自慢の集会所である。
- ・幸町集会所を管理している人が高齢のため、もし管理する人がいなくなれば、市に返すことになり、そうなると、使いたいときは毎回申請を出して借りなければいけなくなる。
- ・一丁目の表側は商店街の為、住んでいる人は少ない。アパートに若い人たちが住んでいるが、町内会の加入率も低い。
- ・民生委員として一人暮らし高齢者の名簿をみたときに、ほとんどが町内会に入っておらず、中には人と関わりたくなくて町内会に入らない人もいるため、訪問しづらいと感じることもある。
- ・高齢者で一人暮らしになると、町内会の手伝いができなくなるから退会するという方もたくさんいる。広報は配布されないが、ゴミの予定表だけは渡すようにしている。
- ・班長になると集金業務が大変。現在、班長になる人がおらず、本当は交代制だが、ずっと同じ人がやっていたりする。
- ・新しく4軒の町内会加入があった。子どももいるし、今後が楽しみだ。

### ■地域の交流・集いの場

#### ○祭りについて

- ・幸町で一番の行事は三沢まつり。町内の子どもだけでなく、他の町内の子どもも参加している。山車を作っている人で町内の方は2、3人、他は前に幸町に住んでいた人たち。実家が幸町だとか、家を出て別の町に家を建てたが、祭りは生まれた所で、と手伝いに来ている。

- ・昔は、幸町一丁目、三丁目、平畑の3つの町内合同で祭りに参加していたが、現在は幸町一丁目と平畑がそれぞれで参加している。
- ・コロナ禍で町内行事は新年会だけやっていた。今年再開しようと思ったが、高齢化や人が集まらない等でできなかった。防災訓練も高齢の方ばかりでできていない。
- ・クリーン作戦の参加率は良い。
- ・幸町の寺子屋について。
  - 参加者は12,3人、平均年齢は85歳。
  - 一番人気は小川原湖青年の家。小物づくりができる、運動できる、食事がおいしい、バス送迎があるのが魅力的。
  - フラワーアレンジメント、新年のお楽しみ会、料理教室、干支作りや、絵手紙、三月は次年度の行事を話し合っ自分たちに合うものを行っている。
  - 体を動かすことが好きな方が多く、寺子屋の始まりにはラジオ体操をしている。ストレッチ体操用の音楽テープを作成し、簡単なレクダンスも始めた。
- ・昔はどこの地域の寺子屋に参加しても良かったため、仲間がいれば遠くてもそこへ参加していた。集会所ができてからは、その地域に入ってくださいとなった。
- ・幸町の老人クラブは高齢化により解散した。寺子屋はあるが、参加者は減る一方だ。今は70代でも仕事をしている人がいて、なかなか入ってこない。寺子屋も老人クラブも引っ張ってってくれる人がいないと自然と解散になってしまう。

## ■地域の困りごと、課題

- ・ゲートの近くということもあり、飛行機よりも、車の騒音がひどい。
- ・暮らすにはとても良い場所だが、若い人たちは町外に出ていく人が多い。借地に家が建っているところも多く、少し面倒なところがある。空き家も多い。
- ・難聴者に対する対策をとった講習会や会合を開催してほしい。
- ・災害時の難聴者への対策
- ・ポケットパークの大木からの枯葉で、毎年掃除が大変。今年ようやく枝払い等の対策をしてもらった。福祉センターの植木も伸びてくると死角ができて危険である。
- ・福祉センターの柿の木について、せつかく実った柿を誰でも取れるようにしたらどうか。

## ■その他

- ・社協まつりはとても人気で楽しみにしている人も多いと思う。規模は小さくても年2回開催できないのか。

- ・ コロナの制限もなくなってきたので、いきいきデイセンターとおおぞら児童館で交流する機会を持ったらどうか。高齢者にとってパワーをもらえると思う。
- ・ 座談会の開催曜日、時間を変える事で様々な方に参加してもらえるのではないか。

■ 避難行動要支援者名簿と個別避難計画について、介護福祉課より別紙資料にて説明。